

手をつなごう2008

備前地域 専門家チーム・巡回相談員連携会議開催

平成20年9月16日

岡山県立東備養護学校
支援部だよりNO. 10



今年度第1回目の連携会議を9月9日(火)に開催しました。ご多忙の中、専門家チームの先生方、各校の巡回相談員の先生方がご出席くださいました。この会は県の巡回相談事業の中で「巡回相談員の資質の向上や関係機関との情報共有を図るために行う」と定められているものです。今回は顔合わせと情報交換を中心に行いました。また、次回は3学期にまとめの会をすること、それまでは各養護学校の単位で具体的な話のできる会をもつことなどを確認しました。

講座2：発達障害の理解と支援—医療の立場から

<講師> 川崎医科大学附属川崎病院心療科

副医長 桐山 正成氏

公開講座報告②

211名の参加申込をいただきました。

発達障害について事例を交えながらとてもわかりやすくお話しいただきました。「医療の立場からのお話はとても新鮮だった」「今まで漠然としていたことがきっちり整理されて頭の中に入ったような気がする」などの感想をたくさんいただきました。

その他の感想も一部ですがご紹介します。

- ・ 基本的な知識をみっちり教えていただき、今後の指導に役立てていきたいと思います。
- ・ 思春期の発達障害の子どもの姿が、事例でよく分かった。
- ・ 今まで何となくどうなんだろうと思っていたことが分かってスッキリした気分です。具体的な話をたくさん聞くことができとても参考になりました。
- ・ 小学校や中学校でよくあるケースのことが多く話されていてありがたかったです。
- ・ 曖昧な対応はいけないということ、ルールを教えてあげるということを、2学期から取り組んでいこうと思います。
- ・ 障害について分かっているようで分かっていなかったのが、講演を聴いて、学校の立場や役割が少し分かったように感じます。
- ・ まだまだ勉強不足でよく理解できていないことが多かったのですが、症例をあげながらの説明があり、分かりわかりやすかったです。医療の立場から書かれた本を読むべきだと聞いたことがありますが、まさにその通りだと思いました。
- ・ 4～5歳が発達のピークでこの時期に療育を適切に行えばIQが50も上がる例があるということを知って驚いた。中学生を見ていると明らかにPDDの症状が見られるのに幼少時から、全く何の指摘もされていないことがとても多い。まだ発達障害についての知識が普及していなかったんだろうが、その子の人生がとてももったいないと残念に思う。
- ・ 医療の立場ならではのお話が聞けてとても勉強になりました。事例の紹介もあり、適切な配慮が必要なことを痛感しました。
- ・ とても分かりやすい講演でした。話を聞きながら我が子が頭に浮かび「なるほどなあ」と納得することが多かったです。分からないことが多い中での参加だったので今後の参考にさせていただきたいと思います。

